シンポジウム

「評価はコミュニケーションだ！～公立文化施設における評価の取り組みと活用～」

● 7/28（火）10:30～12:30（開場10:00）B1F シアターウエスト

公立文化施設や文化行政における戦略的な評価のあり方に関して、令和7年度より調査を行っています。中間報告（アンケート調査データ集計）から見えた全体像を共有するとともに、現在、公立文化施設で取り組まれている評価事例を紹介することで、公立文化施設の価値を可視化する施設評価を起点に政策評価へつなげる道筋を考えます。

［モデレーター］

大澤寅雄（合同会社文化コモンズ研究所　上席主任研究員）

慶應義塾大学卒業後、劇場コンサルタントとして公共ホール・劇場の管理運営計画や開館準備業務に携わる。2003年文化庁新進芸術家海外留学制度により、アメリカ・シアトル近郊で劇場運営の研修を行う。帰国後、NPO法人STスポット横浜の理事および事務局長、株式会社ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室主任研究員を経て現職。

［パネリスト］

吉本光宏（合同会社文化コモンズ研究所　代表・研究統括）

早稲田大学大学院（都市計画）修了後、社会工学研究所、ニッセイ基礎研究所等を経て、2023年６月に文化コモンズ研究所を設立、長野県文化振興事業団理事長に就任。文化政策や文化施設の運営・評価、創造都市などの調査研究に取り組むほか、国立新美術館や東京オペラシティ、東京国際フォーラムなどの文化施設開発、アート計画のコンサルタントとしても活躍。文化審議会委員、東京芸術文化評議会評議員、（公社）企業メセナ協議会理事などを歴任。

若林朋子（プロジェクト・コーディネーター）

文化政策を学んだのち1999～2013年（公社）企業メセナ協議会プログラム・オフィサー。企業が行う文化活動の推進と芸術支援の環境整備に従事（ネットTAMの立上げ・運営等）。13年よりフリー。事業コーディネート、調査研究、評価、助成プログラムの開発、自治体・NPO・公益法人の運営支援などを行う。推しの評価手法はピア・レビューとエピソード評価、変化の声マイニング。

中村美亜（九州大学大学院芸術工学研究院 教授）

専門は文化政策、アートマネジメント。芸術が人や社会に変化をもたらす仕組みの解明や、それを捉える評価の方法論、ケアや社会包摂へのアプローチを実践的・学際的に研究している。全国の自治体や芸術団体で委員・アドバイザーも歴任。訳書に『芸術文化の価値とは何か』、編著に『文化事業の評価ハンドブック』、『ソーシャルアートラボ』、単著に『音楽をひらく』など。日本文化政策学会、アートミーツケア学会理事。日本評価学会認定評価士。

坂本このみ（公益財団法人札幌市文化財団 総務課 調整担当係長）

2010年（公財）札幌市芸術文化財団 芸術の森事業部 管理課に配属。札幌芸術の森にて貸館・庶務業務のほか、園内イベント運営や広報など利用促進業務を担当し、広く現場の運営に携わる。2021年より総務課で中期経営計画の新規策定を担当し、２か年をかけて第１期計画（令和５～９年度）を完成させた。以降、財団全体で各施設評価及び財団評価に取り組みながら、現在は第２期計画策定に向け、中心的役割を担う。

三富章恵（NPO法人アーツセンターあきた 事務局長）

静岡県生まれ。大学院で途上国支援を勉強した後、2006年より、独立行政法人国際交流基金に勤務し、東京およびマニラ（フィリピン）において青少年交流や芸術文化交流、海外における日本語教育の普及事業等に従事。東日本大震災で被災経験をもつ高校生・大学生や児童養護施設に暮らす高校生のリーダーシップ研修や奨学事業を行う一般財団法人教育支援グローバル基金での勤務を経て、2018年4月より現職。